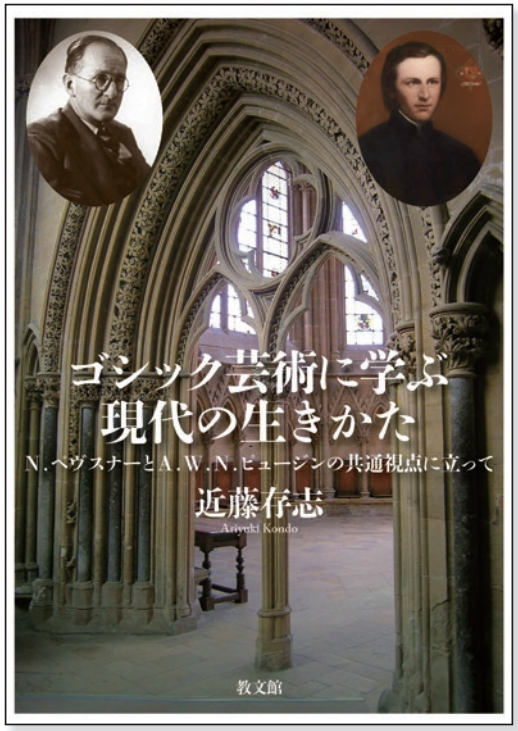
教文館 新刊案内　　６月９日発売予定

ゴシック芸術に学ぶ現代の生きかた

N. ペヴスナーと A. W. N. ピュージンの共通視点に立って

近藤 存志 著



サゾル大聖堂の葉飾りに何を見るか

20 世紀を代表する美術史家ニコラウス・ペヴスナーと、
ゴシック・リヴァイヴァルを主導した 19 世紀の建築家 A. W. N. ピュージン。
中世ゴシック芸術の名もなき職人たちの謙遜を称揚する 2 人の言葉から、
神律的社会から乖離した現代における生のあるべき姿を考える。
現世的欲求にとらわれない、真に価値ある生きかたとは？

《著者紹介》**近藤 存志**（こんどう・ありゆき）… 1971 年東京生まれ。筑波大学芸術専門学群卒、英国エディンバラ大学大学院博士課程修了。PhD（エディンバラ大学）。現在、フェリス女学院大学文学部教授。専門はイギリス芸術文化史、建築史、デザイン史。著書に『時代精神と建築――近・現代イギリスにおける様式思想の展開』（知泉書館、2007 年）、『現代教会建築の魅力――人はどう教会を建てるか』（教文館、2008 年）、『キリストの肖像――ラファエル前派と 19 世紀イギリスの画家たち』（教文館、2013 年）、『光と影で見る近代建築』（KADOKAWA、2015 年）ほか。

A5 判・並製・150 頁・定価 1,320 円（本体 1,200 円＋税）・ISBN 978-4-7642-7449-5　C3070